

ヒト族の中で現生人類だけが生き残ったのはなぜか

～以下、書評「人類進化700万年の物語—私たちだけがなぜ生き残れたのか (チップ・ウォルター 著)」

<島田雅彦 評> (毎日新聞 14.6.29) より～

(・・・・・・は省略部分/太字は引用者による)

手間をかけた教育、命運分ける

・・・・・・ここ180年間の発掘調査で**27種のヒト族**の骨が発見されたが、**今日まで生き延びて来られたのはホモサピエンス**だけで、ほかの系統の種は全て絶滅してしまった。・・・・・・現生人類だけが生き残ったのはなぜか・・・・・・という・・・・・・疑問・・・・・・の現時点での答え・・・・・・は、ヒトが**未熟な状態で生まれてくる**ことが環境適応に有利に働いたという説である。人類に特徴的な長い幼年時代は、生まれてすぐに立ち上がる馬などと較(くら)べて、親子で過ごす時間が極めて長い。**教育や学習に膨大な時間と手間をかけることで、より多様な環境、状況に臨機応変に対応できるようになった**ことが、生き残りのカギになったというわけである。ホモサピエンスとある時期までは共生し、交雑もあったネアンデルタール人が滅んだのは、彼らがより早く大人になるように進化したことが裏目に出たからだという。氷河期到来で生存環境が厳しくなると、高度な知性の磨き上げが生き残りに有利に働いた。それはより具体的には**互助の知恵**であり、**問題解決能力**であり、また**自然界にないものをも作り出す言語能力**であった。民族存亡の命運もそこで分かれるに違いない。